



市・有形文化財 美術工芸品（絵画）

紙本水墨 獅子図屏風 しほん すいぼく ししずびょうぶ 魚津市上村木（常泉寺）

この図は、獅子の番つがいとその子が戯れる様子を描いた六曲一双の屏風で、もとは松倉城の家老といわれる武隈家にあったが、戦火を免れるため菩提寺の常泉寺へ寄進されたものとされる。

右隻には獅子の母と子が描かれ「狩野宗信筆」とあり、左隻には父の獅子ししが描かれ「活潑子無礙書焉」とある。落款は同一のもので、深山の溪谷を駆ける獅子を躍動感あふれる構図で描き出している。

狩野宗信は、室町時代の中期から後期にかけて活躍した狩野派の画家で、祐雪と号し、永禄5（1562）年に没している。

左隻の筆については、宗信に近い無名の絵師であるか、宗信自身であるかは不詳である。